

浅川構成員提出資料

第1回 地域働き方改革支援チーム・発表用資料 宮城県での事例からみた「可能性」

平成27年2月26日

株式会社インテリジェンス
NEDデバイス
公共事業部
浅川 陽

(1) 宮城県石巻地区の農業復興において「昔からの慣習が崩れた事例」から見えるもの。

従 来：家族・親類・近所の決まった方が収穫などの繁忙期を支える。

震災後：物理的な環境変化：高台への移住
農繁忙期に従事する人が確保できなくなっている。

事 例：石巻の合同求人説明会、一つの農業法人ブースが人で賑う。
昔と同じ方法では人手が確保できず、繁忙期要員を求人。



【応募した求職者側のニーズ】……………

① **牡蠣の養殖業務で就業、閑散期に兼業できる仕事がしたい。**

└ **業職種を超えて、水産業と農業のかけもちが可能**という事例。

② **世話になっていた農家がなくなり、同じような仕事を探している。**

└ **口コミ**支えられていた情報流通の仕組みが機能しなくなっている。
企業側の発想転換と積極的な情報提供が有効。

③ **沿岸部では働きたくない人も少なくない。**

└ 少し内陸に入る職場ならばと、水産加工業で働いていた方々が応募。
職業選択肢の拡大。労働力移動（平準化）の可能性

■ **ニーズの合致と適切な情報提供ができれば、働く機会の創出は可能。**

石巻地区は求人倍率も高く、働ける人が少なくなっているように思われがちだが、時間等に制約がある個人や、繁閑差が大きい仕事についている人の労働力にはまだ余力がある。

(2) 宮城県の事業「石巻市の遺跡発掘調査」に従事された方々から見えるもの。

- ・遺跡発掘調査 2015年4月～12月
対象：男性53名、女性12名
業務内容：遺跡の発掘調査
(遺構確認・精査・清掃、写真撮影、遺構測量等の補助)

【応募した求職者側のニーズ】……………

- ①わかめ漁の閑散期に、兼業できる他の仕事がしたい。
L 業職種を超えて、漁業とのかけもちを希望する事例。
 - ②元の仕事が漁師・土木建築など異業職種から参加
L 職業選択肢の拡大。労働力移動（平準化）の可能性
 - ③シニアでも元気に働きたい
L 男性平均年齢65.7歳、女性平均年齢55.2歳
L 土木建築業は60歳以上は「足のつかない仕事」はさせない
という業界慣習が残っており、退職理由となった方が多い。
- 仕事の切り出し方と働き方ニーズが合致すれば、
- ・業職種を超えた職業選択は可能
 - ・年間での繁閑差を平準化し、安定収入につなげる
 - ・地域のシニア層や主婦層の働く機会の創出が可能。

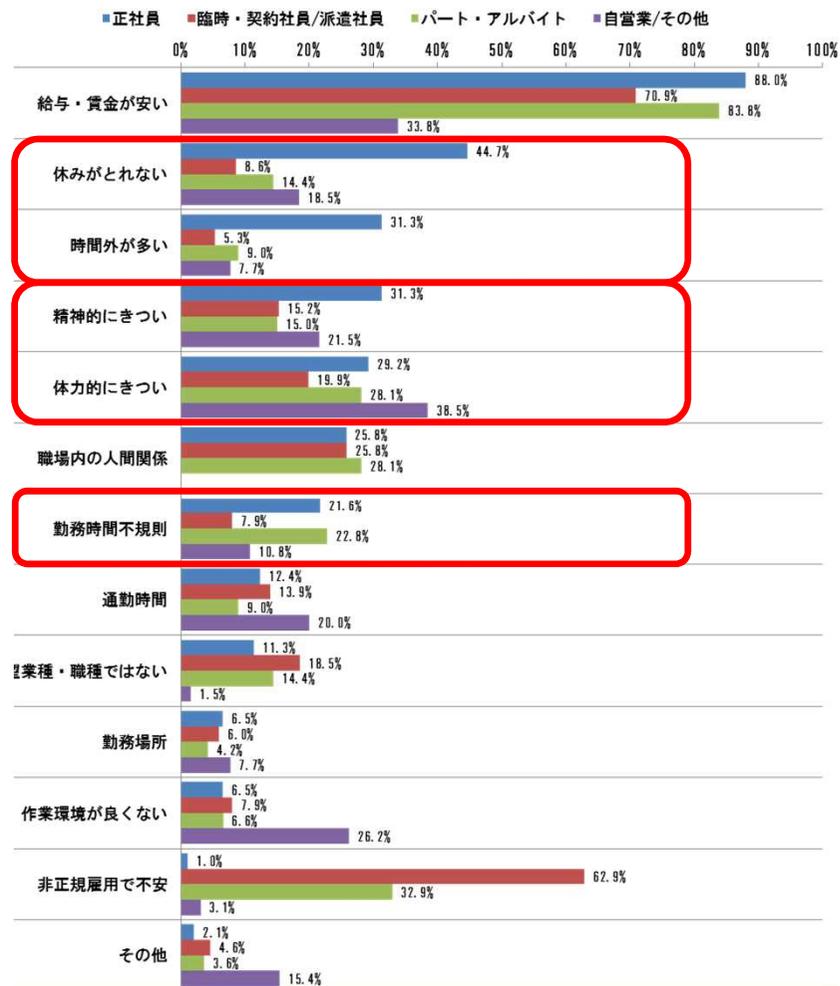
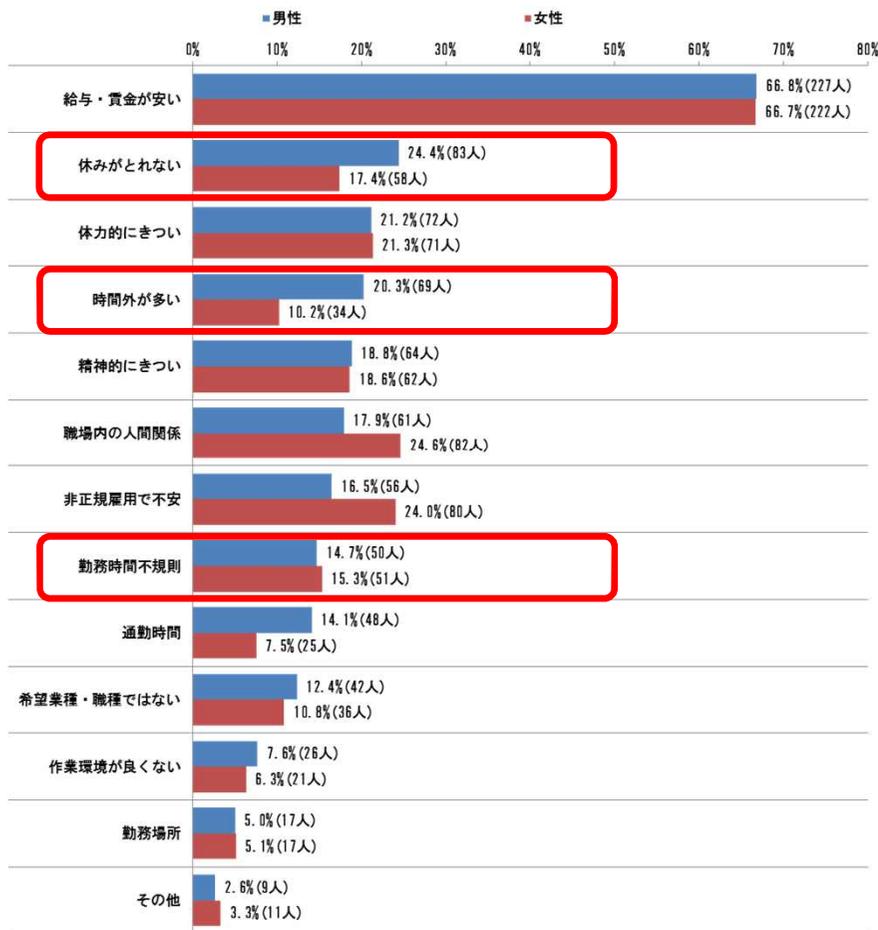


(3) 調査データ

※平成26年度 宮城県被災者等就労状況調査 石巻地区3210件、気仙沼地区2012件、居住地未回答28件

左/ 現在の仕事で不満な部分：男女ともに「給与」。「休日、残業、不規則」が目立つ
 右/ 雇用形態別：「休日・残業」問題で「体力・精神的にきつい」と感じている正社員が多い

現在のお仕事に満足していない理由 男性(N=340) 女性(N=333)

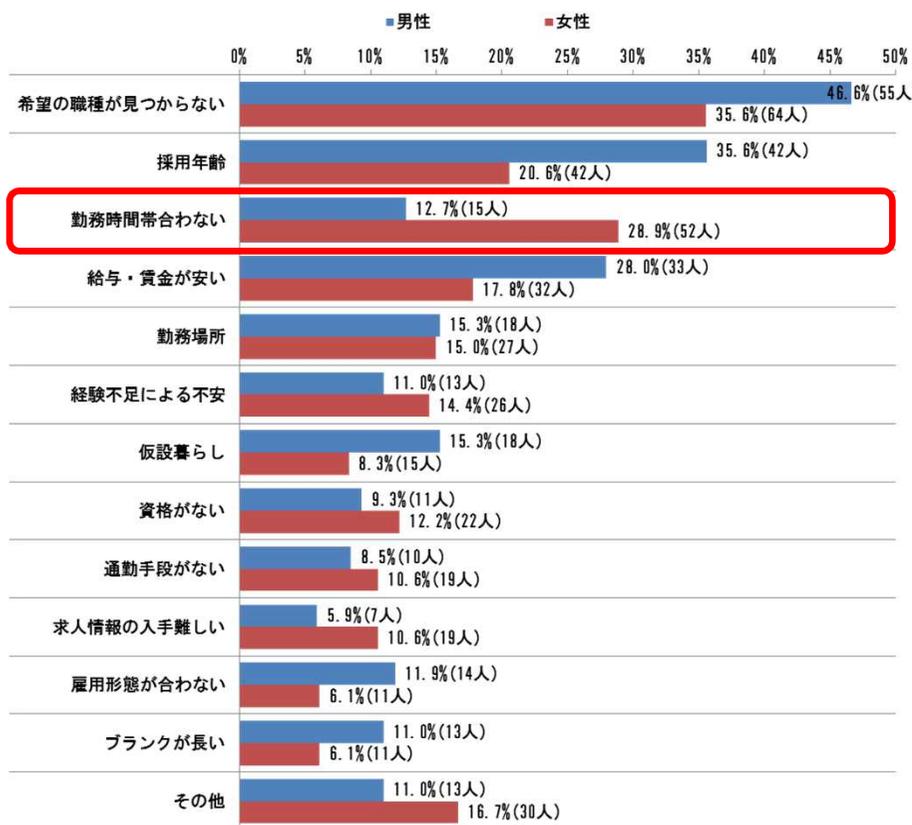


(4) 調査データ②

※平成26年度 宮城県被災者等就労状況調査 石巻地区3210件、気仙沼地区2012件、居住地未回答28件

左/ 求職活動上の支障：女性は「勤務時間が合わない」が非常に多い。
 右/ 雇用形態別：特に非正規社員が「勤務時間が合わない」と感じている。

求職活動の支障項目 男性 (N=118) 女性 (N=180)



(5) 地域での働き方改革の可能性について

- 石巻地区では製造・医療福祉分野の求人は増加を続け、地域を支える運輸・卸小売・サービス業の求人は減少。

- └ 求人総数は増加しているが、曜日・時間選択型の仕事が減少。

他の業態も、サービス業のように「短時間シフト型」の雇用管理を、取り入れることで特定の若手社員に偏っている業務を切り出し、「若年の時間を解放する」ことが重要。

- ・切り出した業務は、業職種の垣根を越えたワークシェアへ

- └ 中堅・若年層の残業の削減、休日出勤の削減、有給休暇の利用拡大に繋がっていく。

- └ シニア層は、働くことで体を動かし、社会との接点を持ち続けることで、心身共に長く健康を維持できる（介護負担の軽減へ）

- ※地域に根付いてきた「働き方文化」の変革は困難だが、仕事と家庭を取り巻く就業条件等の環境が変われば、必然的に行動も変わっていく。



(参考データ：2015/2/5 河北新報)
石巻公共職業安定所管内で2015年12月末有効求人倍率2.04倍（前月比0.17ポイント増）5カ月連続上昇、2倍超は41年ぶり。
復旧・復興が進み、有効求人数が36カ月連続で5000人超と高止まりする一方、有効求職者数が12カ月ぶりに2000人台に減少。
新規求人倍率は3.38倍で、前月を0.54ポイント上回る。新規求人数は1996人で、採用意欲は依然として高い。
産業別有効求人数：製造業 394人で前年同月比102.1%、医療・福祉 450人で37.6%増加。
一方、運輸業・郵便業 51人で▲35.4%、卸売業・小売業 181人で▲32.7%、サービス業 117人で▲20.4%と減少。
パートを含む新規求職者数は590人で、前月比▲15.2%減少した。常用フルタイム440人をみると、「在職者」が160人で前年同月比18.5%増、「離職者」が248人で▲5.7%、「無業者」が32人で▲33.3%それぞれ減少。